

天溪の国内ツアー「2022 年 12 月 発 世界遺産の小笠原諸島」

<掲載が遅れました！>

サッカー・ワールドカップ・ドーハ大会のグループリーグで日本がドイツ、スペインを撃破し 1 位で通過するなど日本中がサッカーに湧いた 12 月 9 日～12 月 14 日、今年 2 回目の小笠原ツアーを行いました。今夏の山小屋はコロナ・オミクロン台風が吹き荒れましたが、この頃はコロナも大分落ち着いていた中での出発でした。

出港時の東京竹芝は穏やかな晴天でしたが 1000Km 南下した小笠原諸島の父島二見港は横殴りの風と猛烈な雨で洋上からは白く霞んで見える有様。この日の小笠原は 24 時間降水量が父島 95.5mm、母島 104.5mm。この 1 日の降水量は 12 月の記録だそうです。まあ、長くツアーを営んでいるとこんな自然の悪戯もありますね！



(千尋岩上部の丘)

○小笠原島へ

目的地の小笠原諸島は定期船 おがさわ丸(11,000 トン) で丸 1 日の船旅。本船はレインボーブリッジを潜り、海ポタルを眺め、さらに久里浜沖から富士山、伊豆大島、三宅島、御蔵島を右舷に見ながら南下。父島の二見港に翌日午前 11 時過ぎに到着。

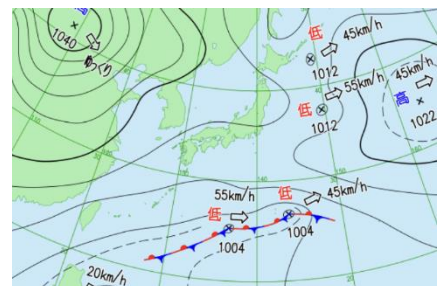
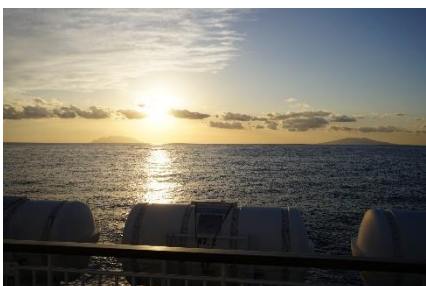
到着時は前述の通り大雨で、ははじ丸(500 トン) 乗り換え時は横殴りの風雨で傘もさせずハイキング用の雨具に着替えて下船。さらに 2 時間の航海で父島から 50Km 南の母島に到着、中々塩っぱい船旅でした。



(竹芝栈橋)



(落日)



(風雨 二見港)

○乳房山ハイキング

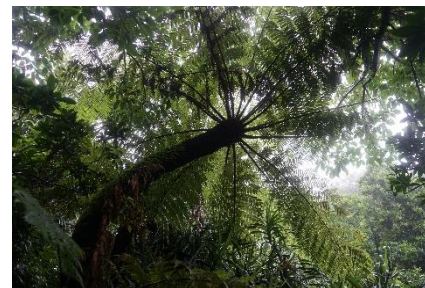
昨日の風雨が嘘の様に穏やかな天気になり母島最高峰の乳房山(463m)に日帰りハイキング。数メートルのマルハチ(木生シダ)やタコノキ、ガジュマル(外来種)が生い茂る亜熱帯樹林を、メグロやウグイスなど野鳥の鳴き声を聞きながら5時間かけて往復。何処となくNZのミルフォードトラック4日目の雰囲気を出し出す樹林帯のエコツアーでした。下山後、ははじま丸で再び父島へ。



(ガジュマル)



(中央奥・乳房山)



(マルハチ)



(乳房山頂上)



○千尋岩ハイキング

昨日に続き今日は父島の1日ハイキング、目的地は千尋岩（ハートロック）の上端です。母島ほど鬱蒼とした亜熱帯樹林では有りませんが、どこことなくリュウゼツラン（外来種）が生え雰囲気はインカト道の気分。目的地の千尋岩は海上から見える赤茶けた地層がハート型をしておりこの名前が付いたそうです。なお、終着点足下は断崖絶壁でハートマークは見る事が出来ません。

夕食後はナイトツアーに出発。月齢 18、月明りで満天の星空は期待しませんでした、結局雲が有り星空は無。しかし、小笠原オオコウモリ、海辺を猛スピードで横足移動する蟹など 2 時間ほどの夜間自然観察でした。



（千尋岩トレイル入口）



（入山者の印）



（タコノキ）



（千尋岩頂上からの風景）

○ホエールウォッチング

母島、父島のメジャーな トレイルをハイキングし、最後に残すはホエールウォッチング。小笠原周辺は 12 月～4 月がシーズンで可也の確率でお目にかかれますが、数日前の大雨にビックリしたのか残念ながら今回はスカ、次回のお楽しみになりました。

おがさわら丸が父島を離れる時は沢山の船がお見送りをしてくれます。黄色い船は 40 年近いお付きの山田船長の船。小笠原のマリンレジャーに興味がある皆様は如何でしょうか、ダイビングサービス KAIZIN <http://www.kaizin.com> 余談、復路の小笠原から竹芝間は季節風の影響で結構激しく揺れました。でもご参加の皆様、特に女性陣は船内レストランで夕食、朝食を完食、元気一杯でした。



(クジラのレクチャー)



(二見港 お見送り)



(お見送り KAIZIN)

次回の天溪 小笠原ツアーは4月上旬行われます。(満員)

天溪/赤沼

◎追記

天溪 2023 年 海外ハイキング

コロナばかりか円安、航空運賃・燃油サーチャージ高、現地インフレ、ウクライナ情勢 など海外ハイキングは厳しい環境に有りますが 2023 年はツアーを何とか再開させたいと考えております。 ツアー計画が纏まりましたら燕山荘のホームページでご案内させていただきます。

<ツアー案>

花のアルプス・ハイキング、 ツール・ド・モンブラン、 ピレネー国境横断、
キリマンジャロ登頂、 エベレスト街道・ゴーキョ、 NZ・ミルフォードトラック (2024 年)